

NO. 223

全 日 本 仏 教 会

12 / 51



宗団の使命

けんそうにまみれた昭和五十一年もまさに暮れなんとしていた。

地震、台風、大火、ロッキード問題、諸料金値上り等世情はいそがしさの極みであった。それにつれて、精神世界の方も何かかわらないうちに引きずられ、いつのまにか終わろうとしている。

現代は情報社会といわれている。種々の話題が善悪の区別なしに、我々に飛び込んで来る。これらを、各人の頭脳がいかに分類し判別して、生活に役立てて行くかが大きな問題である。かの漱石の言葉をかりるまでもなく、とかくこの世は住みにくいのである。

この住みにくい世に、どうして「安心」を確立させて行くかが、各宗団の命題と思われる。この「安心」が確立されれば、宗団の使命の大半が達せられたといっても、決して過言ではなからう。

(一)

写真は歓談されるバンダラナイケ
首相(左より二人目)と関尚道根
来寺座主(三ページ参照)

WFB

日本大会準備進む

勸財、企画小委員会できる

第十二回世界仏教徒日本大会準備委員会は既報のとおり、十月六日に発会した。その後、十六名の小委員が理事長座長による選衡委員会で選出され、さらに勸財及び企画が当面早急に実動態勢に移らねばならないというところから、二つの小委員会が発足し、今日まで種々検討して来ている。

金の依頼をする。(2)懇志袋を全国的に配布して協力を求める。(3)特別寺院協力金、特別仏教徒募金、一般仏教徒募金を具体化する。(4)記念事業として、全仏会館建設を明示すべきであること。(5)小委員会の諮問委員を都近郊県仏等より推せんしてもらう、等々。

勸財小委員は、麻布照海、井上日宏、岡野貴美子、清水谷孝尚、和田仁雅、桜井大乗の各師で、現在までに次のような討議をしている。

(1)加盟宗派、都府県仏、団体等へ負担

また、企画小委員は花山勝友、村野宣忠、若林隆光、西村輝成、摩尼清之、杉谷義純、大橋智士子、真溪義貴、山田一真、白川良純の各師で既に組織面についての検討、日程の検討、趣意書の煮つめが行われているが、趣意書原案の作成

「青年の船」延期いたします

WFB日本大会を記念して明春就航予定であった青年の船「ぜんぶつ丸」は、十一月三十日の締切日までに乗船者募集五百名の見込みがたらず、このままですめていくことが非常にむずかしいとの判断のもと、やむなく延期することとなりました。

いました委員の方々、乗船者募集にご尽力下さった多くの方々に深くお詫び申し上げますとともに、今後充分なる準備をした上で、再度企画いたしますのであります。その節はよろしく御力添え下さいますようお願い申し上げます。

この青年の船準備企画にご協力下さ

事務総長 鏑淵 正浩

は若林委員が担当し、ほぼ成文化している。また大会の名称は「第十二回世界仏教徒日本大会」(通称WFB大会)とすることも決定した。

大会へ御援助、協賛を

実行委員会組織へ

日本大会について、種々の委員会が開かれ、大会への具体的な動きが始まっている。明年早々には「第十二回世界仏教徒日本大会実行委員会」が組織されることになっている。これら組織を有機的に効果あらしめるには、一つに資金の集まり具合にかかって来る。

概要として三億円の経費を要するともくされ、この大会を名実ともに成功に導くには、我国仏教徒が一つになって世界にその範を示すことであります。

何卒、主旨をおくみとりいただき、多大なる御援助、御協賛を賜りたく存じます。ここにあらためて、「世界仏教徒憲章」の前文と目的、また大会日程案等を掲載します。

世界仏教徒憲章前文

一九五〇年六月六日、第一回世界仏教徒大会に各国および多数の組織を代表して参加した我々は世界仏教会を一致協力して設立し、仏陀の教えを遵守実践し、我々が生きた信仰の光輝ある模範となり仏陀の崇高なる教義を全力をもって広め全世界に奉仕と犠牲の慈愛の精神が満ち、地上の人々とその政府をして時代をこえて仏教的の生活に導くべく啓蒙感化し、かくて人類の平和と調和、さらには生きとし生けるもの全ての幸福がもたらされるよう、ここに、この憲章を採択、制定、公布する。

世界仏教会の目的
(1)会員間の仏陀の教の厳格な遵守実践を増進する。

(2)仏教徒の団結と連帯と友愛をはかる。
(3)仏陀の崇高な教義を弘める。
(4)社会的、教育的、文化的、そしてその他の人道的活動を組織し実行する。
(5)人類の平和と調和、生類の幸福を確保するために働き、同じ目的をもつ他の組織と協力する。

第十二回WFB日本大会日程案

- 昭和五十三年九月三十日～十月六日 最高委員会
- 10月1日 開会式(東京)
- 10月2日 各種委員会 分科会 シンポジウム 講演会
- 10月3日 各種委員会 分科会
- 10月4日 京都観光
- 10月5日 閉会式(京都)
- 10月6日 代表団帰国

スリランカ首相歓迎

ニューオオタニで盛大に茶会ひらく

スリランカのシリマボ・バンダラナイ首相が、十一月十二日、公賓として来日、天皇、皇后両陛下にお目にかかったほか、十五、十七日の二回にわたって三木首相と会談し、二国間の経済協力問題などを話しあつて十八日に帰国した。

この来日を機会に全日本仏教会では歓迎の茶会を、十一月十七日午前十時三十分より、ホテル・ニューオオタニ桂の間にて催した。

首相官邸で三木首相との会談をすませたあと、バンダラナイ首相一行は、ニューオオタニVIP専用入口にて、大谷光昭新門（大谷光暢法主代）などの出迎えをうけ、桂の間にて出席者の合掌をう



写真は歓迎に合掌で答える首相

け、仏像、仏旗、両国国旗に飾られた席についた。

鎌田全日仏国際部長の司会により茶会はすすめられ、まず大谷光昭新門が英語で歓迎の挨拶。つづいてバンダラナイ首相が「わが国と日本とは経済協力も友好的に行なわれている。また仏教国として仏教の交流も活発におこなわれております。なお日本からは多くの仏教親善の方々がお見えになりますが、スリランカでは温かく迎えたいと思っておりますのでぜひともおこし下さい」と挨拶し松

濤弘道師（国際専門委員）が通訳した。そのあと寛いだ雰囲気の中で、関尚道、岡野貴美子、中山理々、巖谷勝雄、麻布照海の各師が挨拶すると、首相ならびにティラカラトナ大使夫妻は席を立てて、各テーブルを回り、出席者一人一人と親しく懇談され、「あなたはスリランカに行つたことがありますか」・「京都のお寺を参詣してきました」などと言葉を交した。

最後に出席者を代表して山本スギ全日仏常務理事より記念品が渡され、激しい警護のなかを迎賓館にお帰りになつた。

出席者（順不同敬称略）

大谷光昭、山本スギ、熊野電夫、岡野貴美子、麻布照海、巖谷勝雄、西村輝成

新美孝道、船口暉子、織内七郎、長田順海、柳了堅、黒田武志、松海弘道、瀬川晴朗、藤岡義昭、関尚道、市川智康、杉崎義孝、野村宗春、中山理々、坂田安儀

川島宏之、町田宗夫、西村敏子、マガラスツタ、矢部和雄、椎名調、大塚雄彦、安藤義祐、竜山哲成、鎌田良昭、加藤千代女

アジア宗教者平和会議

事前研究会と結団式

世界宗教者会議（WCRP）日本委員会では、十月二十七日（二十八日、東京のソートビル）において、十一月下旬に開催されるアジア宗教者平和会議の参加者を対象に関係者を招き、事前研究会および結団式を行った。

第一日は、庭野日敬委員長が「待望のアジア宗教者平和会議は内外のご協力をいただいで、ようやくその準備がととのいました。世界平和をもた

らすために、またアジアのかかえている多くの問題の解決に宗教者の英智を結集し、アジア会議を意義あるものにしたいたいと思ひます」と開会の挨拶。ついで田辺哲崖曹洞宗々務総長が「アジアの先哲によつて教示された高次元の生活の智慧を信奉し行ずるところに平和への道がある」と挨拶した。

このあと飯坂良明学習院大教授がテー

マ「アジアの平和、安全、人間尊厳」
・中平健吉氏が基調講演「アジアにおける平和、安全、人間の尊厳」
・谷吾吾皇学館大教授がテーマ3「宗教教育による開発事業」
・山岡喜久男早稲田大教授がテーマ2「新国際経済秩序と總体的国内開発」
・金岡秀友東洋大教授が基調テーマ「宗教による平和」とそれぞれ意見発表。これをもとに三研究部会に分かれ第一研究部会「アジアにおける平和、安全、人間の尊厳」（葉上照登議長）、第二研究部会「新国際経済秩序と總体的国内開発」（三宅巖雄議長）、第三研究部会「宗教協力による開発事業」（田沢康三郎議長）で協議が行われた。

午後七時からは結団式が開かれ（鎌田良昭全日仏国際部長司会）、代表二十七名、ほか日本代表団の紹介、永井道雄文部大臣、中江要介外務省アジア局長等の祝辞、代表団代表の決意表明などが和やかな懇談のうちに終わった。

第二日目はひきつづき研究部会が開かれたあと、全体会議を開き各研究部会より報告が行われ、事前研究会は参加者一同の固い決意のうちに終了した。

仏教代表としては山田恵諭天台座主、葉上照登比叡山長、中山理々日本仏教鑽仰会理事長らの参加とともに、全日仏の石川恒彦国際部主事も出席する。

一月四日の「地藏供養」においては、園児達が各家庭よりお花を一輪ずつ、浅草寺境内にある鎮護堂に安置されているお地藏様に献華をして供養いたします。ほかに「成道会」「涅槃会」などの多くの仏教的行事を行っておりますが、種々の行事を行い園児達を指導するにあたり、一番重要なことは、各教諭の、その行事に対する心構えであると思いま

豊山保育の理念と目標

東京・豊山派宗務所

豊山保育の理念

仏教系幼稚園の園長は仏教者であり、仏教に対する理解は充分と思うが、保育者においては、かならずしもそうであるとはかぎらない。したがって豊山保育の理念を論ずるにあたって、仏教の特性について、「神と仏」、「顕教と密教」、「幼児宗教心理の特質」などを知っておかねばならないが、ここでは略させていただきます、まず理念から述べてみたい。

豊山派の保育理念は「大日経」の三句である。「大日経」住心品に、

「世尊よ、是の如き智慧は、何を以て因となし、云何んが根となし、云何んが究竟となす(中略)仏言わく、菩提心を因となし、大悲を根本となし、方便を究竟となす」

す。若い教諭の中には、それらに対する知識を全く持ち合わせないものや、無関心の者もおります。それらを教化することが先決のように思われますので、本園では毎週土曜日に教諭自身の修行を行っており、それにより教諭自身の仏教に対する理解と信仰をより一層高め、ひいては園児教育に効果を上げていると思っております。

この因・根・究竟の三句を保育の理念とするとき

① 幼児の有する、まことの心たる淨菩提心を教育の因と考え、この成仏可能の仏性から、まことの心をもって合掌し、み仏を拝む理想を引き出すことから出発せねばならぬ。

② いつくしみの行いをする。仏を拝む幼児の心が淨菩提心の功德力によって根をはり、あらゆる善い行いが生まれてくる。

③ 仲よしのよい子になる。という私達の目指す理想的人間像がうまれる。この理念がカリキュラムの中で生かされねばならないわけである。

実際の日常礼拝
まず日常の礼拝は毎朝全園児が一堂に

会してこれを行うことが望ましい。園の環境、設備その他の事情で週何回、あるいはそれぞれの保育室でもやむを得ない場合もあるが、敬虔な雰囲気の中で行なえばよいと思う。

- 1 集合 2 合掌礼拝 3 讃仏歌 4 献供(灯、香、華) 5 おつとめ(南無大師遍照金剛三回) 6 おちかい 7 讃仏歌 8 仏教童話(あるいは法話) 9 合掌礼拝 10 退場

なお日常礼拝を基とし、年間の諸行事はこれを内容的に、時間的に拡大していくことがよい。

年間指導目標

そこで豊山保育の年間計画をみると、仏教の単元を計画の中に配列し作成している。教義の上から重要な仏教徳目を幼児の発達や集団生活の状況にかかわりやすい形で配列し、その具体化をはかって単元が設定されている。各月ごとの単元が、日常の園生活においてどのような活動に展開するのかがここでは略す。

- ① 菩提心為因 まことの心を持ちつつ けましよう
- ② 大悲為根 いつくしみの行いをし ましよう
- ③ 方便為究竟 仲よくよい子になりましよう
- 4月 みほとけさまを拝みましょう(如来加持力)
- 5月 きまりを守りましょう(持戒)

6月 よい行いをしましょう(功德力)
7月 だれにでも親切にしましょう(布施)
8月 ひとの注意をすなおに聞きましょう(法界力)

9月 ひとの役に立ちましょう(利行)
10月 みんな仲よくしましょう(同事)
11月 いっしょうけんめいやりましょう(精進)

12月 がまん強い子になりましょう(忍耐)
1月 思いやりのあることばで話しましょう(愛語)

2月 心をおちつけましょう(禪定)
3月 賢い子になりましょう(智慧)

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (481) 4965

仏教的ライフサイクル

全日仏婦浅草寺大会

秋雨の中、二百名が参加

全日本仏教婦人連盟では、このところ全日本仏教徒会議に併せて、同地において全国大会を開催してきたが、本年の三重大会と仏婦の訪伯旅行とが同時期というところもあって、十一月十一日、浅草寺を会場に「第二十三回全日仏婦浅草寺大会」を開催した。

当日はあいにくの秋雨の中を全国から会員二百名が参集し、午前十一時より浅草寺本堂において、浅草寺貫首・清水谷



写真は挨拶する山本理事長

恭順下導師のもとに会員物故者追悼法要を厳修、一条智光副会長の法話のあと、場所を五重塔に移し祝宴に入った。祝宴は主催者を代表して山本スギ理事長が挨拶。つづいて比叡山延暦寺長賜の葉上照澄師がユーモアをまじえて記念講演。来賓祝辞のあと一条智光、岡野貴美子副会長の大僧正就位のお祝い、仏婦役員高輪功労者表彰が行われ、岡野副会長が代表して謝辞を述べた。

午後二時からは総会が開かれ、会務報告や会員紹介があったあと、参加会員全員で「仏婦の歌」を合唱して閉会した。

翌日は希望会員により、柴又帝釈天や西新井大師などの東京下町名刹めぐりを行った。なお大会には全日仏より安藤義祐事務次長が出席した。

真言宗豊山派、川田管

長の就任式と晋山式

真言宗豊山派・川田聖見第二十二世管長、総本山長谷寺第七十六世化主の就任式と晋山式がそれぞれ宗内外・真言各山関係者多数が出席し挙行された。

就任式は十月二十八日、東京の豊山派宗務所においておこなわれ、川田管長は「教化の本分を自覚し、先師の恩徳に報

え」と垂示、熊野宗務総長が奉答した。このあと田辺哲雄全日本理事長、別所弘因智山派総長、稲岡寛順浄土宗総長、中村康隆大正大学長らが祝辞を述べた。

晋山式は十一月十五日、奈良の総本山長谷寺において厳肅に執行され、川田化主は「長谷寺の興隆に一身を捧げる」と垂示した。このあと関尚道根来寺座主、中村康隆大正大学長らが祝辞を述べ、熊野宗務総長が最後に挨拶した。

なお長谷寺の寺務長には中川祐俊師が就任した。

曹洞宗 秦貫主の晋山式

曹洞宗大本山永平寺第七十六世・秦慧玉貫首の晋山式が、十月二十日、伝統に従って厳修された。

当日はあいにくの秋雨にもかかわらず宗内外関係者等二千名が参列するなかで新貫首は古式にのっとり厳かに晋山の儀を終えた。このあと大本山総持寺岩本貫首、田辺宗務総長、中川福井県知事らの祝辞をうけた。

信貴山 野沢管長晋山式

信貴山真言宗管長・総本山朝護孫子寺第三百三十三世法主野沢密藏親下下の晋山式は、十一月一日午前十一時半から朝護孫子寺本堂において、宗門・真言各山など関係各位多数が参列して執行された。新管長の表白文奉誦のあと、関尚道根来寺

座主らが祝意を表した。

仏教タイムス創立三十周年記念式典

仏教タイムス社（中山理々社長）ではこのほど創立三十周年をむかえ、その記念式典が、三十年前に創刊号が発行された月日と同じ十月二十五日午後五時から東京・芝の東京グランドホテルに、各宗派、諸団体関係者など多数が出席して行われた。

第一部の式典は清水谷恭順浅草寺貫首の三層依文唱和にはじまり、飯野重作仏タイ専務が開会挨拶、続いて全日仏会長（加藤海晃総務局長代読）、法務省顧問の小野清一郎東大名誉教授らの祝辞があり、さらに功労物故者十三氏を代表して故来馬道断氏夫人秋子さんに記念品が贈呈された。また三原信一、摩尼清之、雲藤義道、知切光歳の各氏には感謝状が贈られたあと、中山理々社長が挨拶と謝意を表した。

このあと笠原一男東大教授が「戦後の仏教の文書伝道」と題して記念講演を行った。

第二部の祝宴は、来馬規雄副社長の開会ではじまり、森本博子さんの創作舞踊「法の舞」のあと、浄土宗・稲岡宗務総長、日蓮宗・松村宗務総長（代）、聖観音宗・壬生宗務総長、孝道教団・岡野統理、念法真教・長谷川宗務総長、全日仏婦・山本理事長、東京都仏・桜井会長らが次々と祝意を述べ、最後に万歳三唱でめでたく閉会した。

京都府仏教会

京都府仏教会は去る六月に会長の任期満了により、理事長はじめ役員人事を一新し、事務局長も更迭、事実上新発足の体勢となった。

紹介 仏 教 界

これまでの諸役員に努力により歩んだ長い年月であるが、ふり返って見ると仏供米や灯油の配給を扱った戦中、精神的にも物質的にも貧の底にあつた戦後は練成会や義援金托鉢等、何かにつけて僧侶は卒先して団結の機会が多かつた記憶がある。だが戦後十数年を経て各宗派とも混乱期より立ち直り、宗内活動が盛んになるにつれて仏教会に対する寺院の考えは「加入しておられない」から「加入していてもよい」に変わって来たように見受けられる。

「歩き始めたばかり」

ところがさらに近年、事業面を強調し、その成果によって経済的な補給を得て会の活動源を豊かにし、会員の関

心を大にする方針が取られて来た。結果は当事者に誤りがあったためか、仏教会とは別の団体に寄付金を導入し、あるいは事務局の一部に自己の物欲を満たす傾向が目立ちはじめ、会には大きな赤字が生じ、会員の増加を計るところか「任意団体である」として減少の恐れが生じて来た。

ここにおいて任期満了を待ち、理事長以下の役員新任により、事務局長に至るまでの変更が行われたのであるが新事務局に残されたものは莫大な赤字財政と失われた信頼とである。

役員の人事を一新

財政の再建へ取り組む

従つて、京都府仏教会として当面の問題は、財政の再建にとり組みつつ、失われた信頼をどのようにして取り戻すかである。卒直に過去を認め、会員のためにある仏教会として期待され、現代に生きるにはどうあるべきか、というような、他府県仏では過去のものとなつた命題に取り組んでいる立ちおくれぶりである。

各宗派本山、宗務庁の圧倒的に多いしかも反面、三千の中小寺院を持つ京都府仏が「任意団体である」考えを

喜ばれる彼岸法要

主な事業

会報 B4版十頁程度のものを年二回発行している。財源は広告等に頼っているが、正月号には会員の会報に対する関心を高めるよう年賀交換をお願いして発行の一助としている。会務報

要を行い組長以上の役員が参詣する。これを機会に、同日は、同一寺院に三十年以上勤続住職を仏教会会長が、五十年以上勤続住職を京都府知事が表彰することになっており、懇親会も合わせて行われる。

毎年年末にひらく

管長、門跡、貫主等各本山、本庁代表会議 京都各宗派本山、本庁、門跡寺院が多いが、それら寺院の管長、門跡方は、超宗派での懇談、おつき合いの機会も、重要な課題として、例年年末に会所持ち回りで行われている。今年十二月九日、浄土宗西山禅林寺本山を会所として、臨済宗南禅寺派管長勝平宗徹老師の「中国を訪問して」のお話を伺い、懇談会が行なわれる。会後の企画としては、会員総会が開催される気運を作り上げることが重要な課題としている。

告の他、会員の海外仏蹟訪問記、所感府下単仏だより等を予定している。彼岸骨灰法要 毎年春秋半期間に亡くなり、京都市営の火葬場で火葬された府、市民の残骨総供養を行うものである。毎回九百人ほどの遺族、縁者が参詣される。今年春は千本釈迦堂大報恩等、秋は真言宗智山派智積院で行われ、会所大徳方の法話を頂いた。府、市民と密接に結びつき感謝されている企画である。

成道会 各宗派持ち回りで成道会法

- 事務局 京都市中京区東洞院通り三条下ル 住心院内
- 会 長 野々山龍全
 - 副会長 横井 鶴洲
 - 同 葉土 照澄
 - 同 小林 忍戒
 - 理事長 栗田 魁寿
 - 副理事長 今村 開要
 - 同 宮城 泰年
 - 事務局長 宮城 泰年

宗教法人審議会委員

文部大臣の諮問機関である宗教法人審議会第十三期委員が発令された。同審議会は、文部大臣による規則等の不認証の決定や、公益事業以外の事業の停止命令などの事項について審議する。全日仏関係の委員は次の通り。

田辺哲雄（曹洞宗々務総長）、浅井堅教（豊山派前宗務総長）、藤岡義昭（本願寺派築地別院輪番）、松村寿頭（日蓮宗々務総長）

掲◇示◇板◇

真言宗豊山派新人事

▼豊山派では鳥居敬管管長の退任に伴い川田聖見師が第二十二代管長に就任（十月十六日付）、また浅井堅教宗務総長が退任し、熊野龍夫師が宗務総長に任命された。新人事は次の通り。（十月二十一日付）

宗務総長・熊野龍夫、総務部長・加藤龍弘、財務部長・岩脇宏信、教化部長・門屋大寿、教務部長・田野憲有

高野山真言宗新人事

▼高野山真言宗では、近藤本昇宗務総長退任に伴い、阿部野龍正師を新総長に選出した。阿部野新内局は左の通り。

宗務総長・阿部野龍正、総務部長・麻生恵光、教学部長・島田信了、財務部長・稲葉義猛、法会部長・辻徹秀、山林部長・伊勢木俊範

高知県仏会長に島田信了師

▼高知県仏教会では横山玄秀会長の任期満了に伴い、島田信了師（高野山真言宗高野寺住職）を会長に選出した。

大正大学創立五十周年式典

浄土宗、天台宗、智山派、豊山派が共同運営する大正大学（中村康隆学長）では、十一月一日、創立五十周年記念式典を盛大に挙行し、一層の飛躍を誓った。

全日仏事務局人事

財務部長 岩脇宏信 豊山 10月30日退
文化部長 市橋俊昭 豊山 11月1日新
組織部長 滝 真澄 大谷 // 移
財務部長 小峰令丸 智山 // 移

事務総局録事（十一月）

- 二日 東仏理事會出席
- 四日 WFB企画小委員会
- 八日 局内會議
- 十日 WFB勸財小委員会
- 十日 WFB企画小委員会
- 十一日 仏婦大會出席
- 十五日 長谷寺晋山式參列
- 十七日 WFB勸財小委員会
- 十八日 WFBバンダラナイケ首相歡迎會
- 十九日 日宗連理事會
- 十九日 WFB準備合同委員會
- 二十日 世界仏教徒會議執行委員會
- 二十一日 長野県仏教徒大會出席
- 二十四日 埼玉県仏と打合せ
- 二十五日 WFB合同小委員会
- 二十五日 局内會議
- 三十日 常務理事會

美しい日本の、国債。

宗教法人の皆さま、大切な資産運用に国債をご活用になりませんか。国が発行する債券ですから、もちろん安全確実。さらに宗教法人は免税団体ですので利息は非課税扱いになり年8%の大きな利息が、そっくり10年間、確保されます。また短期の資産運用をお考えなら、短期間でも有利な既発国債も利用できます。皆さまの資産運用が明日の国づくりにも役立ち、一石二鳥。ぜひ、今後の資産運用の柱に、国債をご検討ください。

野村證券

〒103 東京都中央区日本橋1丁目
電話 (03)211-3811(大代表)

昭和五十二年十一月二日発行
発行人 株式会社野村證券
発行所 東京都中央区西浅草一、五丁目